２０２５年度函館大谷高等学校
第３者評価報告書

評価校　主）稚内大谷高等学校

副）帯広大谷高等学校

（評価日　2026 年1月 29 日）

２０２６年３月３１日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

北海道大谷学園連合会評価委員会

主　　査	中西　猛雄（北海道教区大谷学園委員会委員）
主査代理	土山　泰弘（北海道教区大谷学園委員会委員）
委　　員	寺澤　三郎（所長推薦・第１３組教證寺住職）
委　　員	丸山　政秀（函館大谷高等学校 校長）
委　　員	佐藤　健一（函館大谷高等学校 事務長）
委　　員	佐藤　真司（帯広大谷高等学校 教頭）
委　　員	坪坂　智光（帯広大谷高等学校 事務長）
委　　員	木村　泰優（稚内大谷高等学校 教頭）

函館大谷高等学校の概要

設 置 者	学校法人　函館大谷学園
理事長名	田中　彰祐
校 長 名	丸山　政秀
開設年月日	１８８８（明治２１）年１１月
所 在 地	函館市鍛冶１丁目２番３号
設置学科	普通科（普通コース・体育コース）
入学定員	１３０名
教職員数	総数　４９名 （常勤　２７名　非常勤　２２名）

調査結果

Ⅰ　建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

【建学の精神、教育理念について】

明治時代の六和女学校を起源とする理念を脈々と受け継ぎ今日に至っている。函館の地における女子教育の必要性は時代と地域社会の要請があり、「いきいきと生きられる人間の誕生」を願ってやまない情熱が建学の志となっているが、地域からは面倒見の良い高校として高評価をいただいていることからも、こうした精神が脈々と受け継がれてきた賜物であると考えられる。

Ⅱ　分掌

【教育課程・学習指導（教務）】

学習指導においては、「すべての生徒の学力を向上させる」という校長先生の方針のもと、教職員一人ひとりが工夫を凝らした授業や課題提示、補習等の取り組みを行っている。特に低学力層の学び直しに力を入れ、一定の成果を残している点は評価に値する。その結果が少数の転・退学率につながっているのであろう。

生徒指導では全校集会や朝の HR にて行う服装の一斉点検指導や身だしなみ点検を行う等基本的指導を徹底して行っている。結果一人ひとりの変化に迅速に気づくことで、問題行動の未然防止に寄与していると考えられる。また、生徒会活動は希望制ということであることから、年度で人数や意欲が大きく変化し運営に困難を極める場面もあるようにも思える。いずれにせよ担当教員のサポートのもとより良い活動を行っていって欲しいと切に願う。

【生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）】

進路指導ではただ行事に参加するだけにとどまらず、行事毎に事前・事後指導を行い落とし込みを図っている。しかしながら生徒がしかるべき時期に自身の進路を決定できず、保護者の決定権が強い家庭が増えつつあり、「生徒が進路とどう向き合うか」という課題は他校でも浮き彫りになっている現状があろう。

【入試・生徒募集】

入試・生徒募集では、さまざまな事情を抱える生徒達に対する配慮を意識した学校見学、説明会申し込みのオンライン化や web 出願等、時代の流れに即した対応を行っている点に温かみを感じる。

Ⅲ　管理運営（ガバナンスの確立）・財務

理事長の下、全員一致の学園運営が進められている。また、評議員会は理事会の諮問機関としての役割を十分発揮していることから、組織は円滑に機能しているであろうと推察される。また、校長先生のリーダーシップのもと、全員の確認を怠らず物事を進めていこうとする姿勢や、校長先生自らが中学校とのパイプを築こうとする行動力は素晴らしいと感じる。

今後は中学校卒業者の減少や物価高、特色教育加算の単価減等の諸問題により、財務体質の改革や改善が求められることであろうが、持続可能な学校運営を行っていただけることを切に願う。

Ⅳ　改革・改善・危機管理

自己点検・評価については、校内のみならず PTA 役員等の校外関係者による関係者評価に活かされているということで、忌憚のない意見収集に努める中、改革・改善につなげようとする意識の高さを感じる。

危機管理においては、感染症対策や天災等、想定外のものが存在し、新たに対策を講じなければならない事例が増え何かと大変ではあるが、「生徒の安全確保」を念頭に置き今後も対応等を行っていただきたい。

以　上